

### 中田 都市農村交流ツアーを開催



▲神楽によるオープニングで参加者を歓迎しました

### 市の「観光」「食」を満喫

9月12～14日の3日間、都市農村交流ツアーが市内で開催。物産展を通して交流している横浜市泉区中田連合自治会や東京葛飾区中之橋町会などから21人が参加しました。

12日の交流会では、日高見流浅部法印神楽保存会による演舞で一行を歓迎。参加者には、地元の食材を使用した料理や新米などが提供され、中田の「食」を堪能していました。

2日目以降は、登米町の教育資料館や高倉勝子記念館、津山町のもくもくランドなどを見学。市の観光や食を通して、交流を一層深めました。

### 迫 迫公民館で女性のつどい開催



▲全員参加型の地域包括ケア体制の重要性を説く田上院長(中央)

### 市の在宅医療・介護学ぶ

9月6日、「第60回はさま女性のつどい」が迫公民館で開催され、迫地区の女性団体から約180人が参加しました。

つどいは、各女性団体の交流と資質の向上を目的に毎年開催しているものです。今年は、やまと在宅診療所登米の田上佑輔院長が「在宅医療について」登米市の医療・介護」というテーマで講演。患者だけでなく、家族や地域住民を含めた全員参加型の地域包括ケア体制が重要であると強調しました。

参加者の一人は「市に優秀な医師が来てくれて、とてもうれしく心強く感じました」と満足そうでした。

### 豊里小・中で広島へ義援金

善意の募金、日赤通じ被災地へ

### 豊里

豊里小・中学校の児童生徒会(佐藤直政会長)では、8月に発生した土砂災害被災地の広島市に義援金を贈りました。

義援金は、同校の執行部役員と福祉委員会を中心に募金活動で集めたものです。土砂災害で大きな被害を受け、過酷な生活を強いられている様子をテレビなどで見て、少しでも被災地の役に立ちたいという思いで実施しました。

義援金は、9月19日に豊里総合支所を訪れた執行部役員から日本赤十字社登米支部へ手渡されました。義援金は日本赤十字社を通して、子どもたちの思いとともに被災地に届けられます。



▲佐藤会長(右)から被災地の復興を願い義援金を手渡されました

### 赤いリンゴで事故トメる

交通安全協会登米支部(菅原光男支部長)では9月24日、交通公園前で秋の交通安全運動「みんなで登米っぺ交通事故りんご作戦」を実施しました。

「りんご作戦」は「リンゴ」は「赤い」「赤い」は「止まれ」という連想から「赤いリンゴ」をドライバーに渡すことで、「交通事故を止めよう」という意図があり、毎年開催しています。

当日は、登米小5年の交通安全少年団31人が参加。登米警察署の協力の下、県道から公園へ誘導されたドライバーに、赤いリンゴとメッセージが入った袋を手渡し、交通事故防止を呼び掛けました。

登米小5年生が交通安全運動

### 登米



▲ドライバーへ赤いリンゴを手渡す児童

### 米山 米岡小で街頭パレードを実施

### 米山町から事故をゼロに



▲金管バンドを先頭に地域住民へ交通安全を呼び掛けました

米岡小学校交通安全少年団(菅原純一校長)では9月24日、交通安全街頭パレードを実施しました。

パレードは、秋の交通安全運動の時期に、地域住民と児童の交通安全意識の高揚を目的として毎年開催しています。

当日は、同校児童が米山郵便局付近から米山体育館までの約1.5キロに渡って、金管バンドの演奏と大きな横断幕で交通安全をアピール。沿道の多くの人からも温かい声援が送られました。体育館で行われたセレモニーでは、団長の大槻泰生さん(6年)が事故防止に向けた誓いの言葉を述べました。

### 東和 米谷工高生徒が地域奉仕活動

### 今年で最後のミラー清掃



▲交通事故ゼロを願い丁寧にカーブミラーを清掃する生徒たち

米谷工業高校の交通安全委員会(小野寺玲菜委員長)では10月9日、学校周辺のカーブミラーを清掃しました。

バイク通学生徒が多い同校では、過去にバイクによる痛ましい交通事故が発生したことも。活動は生徒に交通安全の意識を高めてもらおうと30年以上前から実施しています。当日は、19人の生徒が参加し、学校から米谷大橋周辺と大関橋周辺までの2コースに分かれ清掃しました。

同校は来年4月から再編・統合により閉校となるため、今年が最後の活動です。清掃活動中は、地域の皆さんから生徒たちに励ましの言葉が掛けられました。